

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172200196		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・志木中宗岡		
所在地	埼玉県志木市中宗岡1-19-58		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成29年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成29年10月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「一期一会」。入居されたご利用者の方々とはご縁があつての出会いであり、お一人お一人との今という時間を共に大切に過ごしていきたいとの想いから、この理念を作り実践しております。中でも力を入れているのが、レクリエーションです。毎月、その季節にあつた催し物や食べ物を提供し、少しでも楽しいと思ってもらえること、季節を感じて頂けることに努めております。また、その催しものを皆で考えたり、話し合うことで職員同士の信頼関係を築くツールにもなっております。納涼祭とクリスマス会では、地域の方を招き、交流の場にもなっております。中でも人気ののが、近所の保育園の園児たちによる出し物です。こういった地域との関係性は今後も継続していけるように努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念を大切にして、日々の介護を行っている。住み慣れた我が家から移られてきたからこそ、「当たり前」のことを当たり前前に出来るように支援している。「晴れているから散歩に行きたい」「会話を楽しみたい」等の要望に最終的には本人に決定権が有るという事を意識しながら職員、フロア長が相談しながら対応している。次に、勤続年数の長い職員が多く、意見が活発に出る。運動会の内容を決定する時に、同じ種目でも利用者の状態に応じて内容を変更し、全員が楽しめる配慮を行っている。最後に食事に対して楽しみが持てる支援をしている。利用者の状態に応じた食事形態での提供や好みのワサビや調味料を個人で用意し、今までの習慣を続ける事が出来る。誕生会に担当職員が工夫を凝らしたおやつを提供し、にこやかな笑顔の利用者の写真が掲示されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様にとっての今は人生における最終章に入ってきているということを職員が理解し、一日一日を大切に過ごして頂きたいという想いで現在の理念を皆で作りました。	事業所独自の理念が有る。ケアをする中で「道すじ」となっている。職員とフロア長で話し合いをしたり、申し送りノートを使用し共有をしながら、利用者の安心を一番に考えながら、個々の意向に沿った支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居前からのご友人が訪ねてこられたり、ホームの前にある、せせらぎの小路にて散歩中に交流したりされています。	事業所前が遊歩道で、そこに散歩に出た時に近隣の方と話をする。すぐ近くに保育所があり、事業所の夏祭り、敬老会の時には児童の来訪があり、歌のプレゼントがあった。利用者はとても喜び、笑顔が見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフには本部で開催している認知症研修に出席し、職員会議にて共有している。ご近所の方やご家族の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に一度話し合いの場を設けている。頂いた意見や提案を実際に行い、サービス向上につなげていけるようにしている。	事業所の隣に地域包括支援センターがあり、そこで、2カ月に1度開催をしている。家族の参加を促す為に、家族会と同日開催をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保の方の面談の際には、職員が同席し密に情報交換をしている。また、こちらから市役所へ訪問し、不明なことを聞いたり、アドバイスを頂いたりしている。	市主催の研修や交流会の案内が封書で送付されたり、市職員が来訪時に、サービス内容を伝えている。今後、水害等の災害時や緊急時の連携をしていこうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束廃止委員会を実施し、ホームにて拘束にあたることはないかなど話し合う場を設けている。	担当職員がが中心となり身体拘束廃止委員会を開催し、行為の有無の確認や、事例検討を行う。職員は内容について理解を深めている。会議で利用者の行動の理由を探り、その対応について家族と相談をし、拘束をしない為の取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、高齢者虐待防止委員会を実施し、ホームにて虐待にあたることはないかなど話し合う場を設けている。また、本部にて研修も実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、本社にて研修が開催され、職員に参加してもらっている。職員会議で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、不安や分からないことなどあると思うので、契約の前の段階から連絡をとるようにしている。時間をかけ丁寧に説明することを意識しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に6回行っており参加率向上のためイベントに合わせたりしています。	利用者からの意見は全職員が聞き、管理者も随時声掛けをする。玄関に意見箱を設置し、面会時に家族に直接伺う。管理者は家族とのコミュニケーションを大切考えており、行事の時に家族の来訪を促している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やフロア会議にて意見をもらっています。会議で言いづらいようなことは、別でヒアリングをする機会を作っております。	管理者は会議時に話易い雰囲気を作るように心掛けている。行事の内容や物品の置き場所等意見が出る。会社として6カ月に1度個別ヒアリングを行うが、仕事の合間に声掛けをし、意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の自己啓発研修や外部研修に参加し職場会議でも勉強しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の自己啓発研修や外部研修に参加し職場会議で勉強しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流会に参加して職場会議などで話し合いをしています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望に応じできる範囲で行っています。なるべく安心して頂ける環境づくりを心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話やお手紙を通して話を伺って対応しています。家族会を通じ要望を伺っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	シニアセラピーや訪問リハビリを利用するよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝いが行えるご利用者様には掃除や洗濯もの干しやたたんで下さったり食器拭きをしたり一緒におやつ作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の意見やご家族様と相談しながら楽しく生活できるように支援しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が元々地域の方が多く近隣のデイサービスや友人も面会に来て散歩に行かれたり以前働いていた職員と連絡したりしている。	友人の来所時に居室でコーヒーを振舞ったり、手紙の代筆をしたりしている。家族と教会や病院に行くこと、スーパーに買い物に行く事など様々な満足感を持って暮らせる様に支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が交流でき誰でも参加できるようなレクの工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が必要に応じ対応しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や行動から思いをくみ取りケアに取り組んでいる。ご家族様より面会時などに話し合いをしている	日々の関わりの中で利用者の話を伺う。言葉での表現が難しい場合は、毎日の様子で変化を見て、フロア会議でその理由を突き詰め、職員間で共有する。又、家族と話し合いを持ちながら、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査を基にできる範囲での掃除や洗濯干しや畳みものや家庭菜園などをして頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気になることはご利用者様とお話する時間を設け異常がある場合などは職員同士で話し合いをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議などでカンファレンスを行いご利用者様、ご家族様の意向に沿った計画書の作成をしている。	利用者家族からも意向を伺う。フロア会議時に参加者全員でモニタリングを行い、職員からの意見も反映しながら介護計画を作成する。必要に応じ、医師、家族を交えて話し合いを持つ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用や口頭での申し送り等で情報の共有をし1カ月に1度以外にも変化がみられる場合はケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	シニアセラピーや訪問リハビリの利用を提示したり体験してもらっています。場合によっては訪問看護も取り入れたり訪問クリニックの変更も相談受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある商店街や公園、保育園との交流、花屋で苗を買い外のお庭で水やりをする際、せせらぎの小道を歩かれている方とのたわいもない会話などをできる範囲で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療をはじめ、訪問看護・歯科医師・歯科衛生士の訪問により健康管理をしています。体調がすぐれない場合など臨時往診で診て頂くこともあります。	入居時にかかりつけ医を選択出来る。月2回訪問診療が有り、夜間は電話で対応している。家族が希望すれば、医師との面談が可能。家族対応の通院時は日常の様子を書面で伝え医師との情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護・あやクリニックに連絡または診て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	なるべく週1ペースで面会に行き病院の方よりお話を伺ったりご家族様との連絡も行い訪問看護又は、あやクリニックとの連携を取り早期退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者がご家族様に説明し訪問クリニックの変更や次の施設の申し込み医療依存が強い場合などは弊社特定に転居を勧めています。	食事がとれなくなった場合、今後の生活の場について家族、医師、管理者を交え話し合いを行う。方針を共有しながらも、家族の気持ちの変化に応じて、話し合いを持つ。看取りの経験は無いが、管理者は今後取り組んでいく気持ちを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡簿を使うようにしている。また、定期的に勉強会を(AED等)行っています。管理者、ご家族様、訪問医師に連絡し対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施しています。緊急時に備え勉強会や緊急連絡網を各階に貼って連絡を取り合っています。	避難訓練は年2回消防署が立ち合い、昼夜想定で行っている。火災時の避難の流れや各フロアに職員緊急連絡網、飲料水の備蓄がある。管理者は立地環境を考慮し、水害マニュアル作成の必要性を強く感じている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時排せつ時には特に気をつけています。居室に入る際、出る際声かけノックをしています。年に2回個人保護法の勉強会を職員の中でしています。	個人情報に関する書類は施錠出来るロッカーで管理する。事務室の月間予定表の入居者名はイニシャルを使用し個人を特定されない配慮をしている。尊厳や言葉使いについて、会議や日常の中で対応を話し合う。	利用者に対し、尊厳を大切にしたい言葉使いや対応の振り返りをし、更なるサービスの質の向上を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるご利用者様には希望に沿った外出やおやつ、買い物をして頂いています。自己決定できない場合でも昔好んでいた食べ物等の提供をしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる範囲でできる限りご利用者様のペースに合わせた生活をして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で更衣される方は、ご自身に任せております。化粧水等もスタッフルームで管理ですが訴え時はお出してつけて頂いております。介助の方も介護職員が気にかけて起床時に整容を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント食、ご当地メニュー、年に数回ですがご利用者様に食べたい物を聞き手作りの昼食、月数回ですがホットケーキ等のおやつ作りなど、またお皿拭き等のお手伝いをして頂いています。	配膳や食後の皿洗い等は、利用者の希望や状態に応じて行っている。敬老会の時の紅白まんじゅうや、職員がアイディアを出して提供のご当地メニューのお弁当は、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量が分かるよう記録をとり健康状態を把握しています。ご家族様にゼリーなどを持ってきて頂くなどしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でケアされる方も一部介助の方も仕上げる際、介護職員が歯間ブラシやスポンジを使い行っています。体調の変化に応じて衛生士さんにお聞きしケアを変えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にお声かけしトイレ誘導に努めている。オムツ対応の方でも立位が取れる方には、トイレやPTイレの使用をしている。	なるべくトイレで排泄をするという意識を持って行っている。排泄表や様子を見ながら誘導をしている。紙パンツ使用開始時等は、職員間で課題や対応を話し合い、家族を交えて利用者に合った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬でのコントロール、乳製品を摂って頂く。腹部のマッサージ、体操などを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用様の体調や希望に沿い入浴している。バスクリンを使用したり時期によって季節感を味わってもらっています。	週に2回午後に入浴するが、希望により日にちの変更も可能。足ふきマットは1回毎に交換している。2. 3階は一般浴だが、シャワーチェアを使用し、車いす利用者、も無理なく入浴する事が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用様に合わせ昼寝をしてもらったり夜間は定期的にパッド交換し気持ちよく休んで頂けるよう寝れない際は、TVを介護職員とみたり傾聴したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を見たり看護師に聞いたりしています。新しく処方された薬に関しては、特に要観察し別に記録を取らせて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせたお手伝い、レクへの参加。家庭菜園、書道、縫物などを付添にて行っています。また、定期的に散歩をして気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲で近隣の公園や買い物に行っています。利用者様の状態に応じ外気浴、ご家族様の協力のもと外食や散歩に出かけています。	1対1の個別対応でホームの周りや遊歩道に散歩に出かけている。玄関に出る事で気分転換する利用者もいる。職員と近隣のコンビニエンスストアに、菓子や日用品を買いに出たり、家族と一緒に通院や外食に出る等の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理がご自身でできる方に関してはお財布ごと持っています。金額が少しの場合は、介護職員見守りのもと買い物を買います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用やホームの電話を使用しご家族様と連絡してもらう。また、ご自身で字をお書きになられる方には、一言通信などに書いてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物の作成、装飾をしております。掃除管理表を使用したり環境改善を行っています。	季節に応じた装飾を利用者と作っている。エアコンを使用して室温の管理をしているが、適度に窓を開け、外気により季節を感じられる配慮をしている。新聞、雑誌が手の届く所にあり、自由に読む事が出来る。食事の直前まで新聞を読む利用者がいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に一人でTVを居室でご覧になられたり気の合う方と各居室で話をしたり将棋をしたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものをご家族様と相談しながら使用して頂きレイアウトはご利用様の過ごしやすいようにして頂いている。またぬいぐるみや仏壇なども持ち込んできて大切に介護職員が掃除や洗濯している。	居室の清掃、衣類の管理は職員が行う。ひいきの芸能人のポスターや自分で作ったパズルを飾っている。居室のベランダで花を育てる、読書をする、毎日ラジオで占いを聞くなどを日課としている利用者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前には、トイレの貼り紙をしたり居室に名前えを貼りわかりやすくしている。また耳が聞こえない方にもわかるようボードを用意している。		